



僕は木村監督という人は、ものすごく純粋で情が深く、本音をちゃんと相手に伝え、その分、責任をとる人だと受け止めています。木村さんが怒鳴っていても僕は「可愛い」と思っちゃうし。ただ言わなければいいことをいっぱい言って自分の首を絞めていることがあるというか（笑）。

山岳ガイドのトップ（山岳監督）の多賀谷治さんが「体がそのうち山になりますけ」と言ってくれて。その意味が最初はわからなかったんですが、ある日気付くんですネ。「あ、今日から山になった」と。そこからは強かったですね。

山に関しては、多賀谷さんがなるべく監督の思い通りの絵を取らせようと、危険な撮影もいろいろ考えて現場を仕切っていました。そういう意味では、木村監督が柴崎芳太郎であり、多賀谷さんが宇

治長次郎だったと思います。

僕の役の長治郎は、縁の下の存在で、人のために生きて人です。僕は長次郎のようにはなれないけれど、彼のようにすべてのものに敬意を抱いて生きられたら美しいし、学びたいと思いました。まさに多賀谷さんがそういう気持ちをもっていらっしやっただので、僕を通して多賀谷さんを長次郎として画面に存在させようとした。俳優として今回の仕事は、それだったような気がします。

映画の中に長次郎と息子の場面があります。息子は父親を否定するものだけれど、大切なところではつながっている・・・この場面は監督の実体験がもとになって、「お前はお前で、生きていなければいけないんだ」という台詞も、実際に監督が息子さんにおっしゃったそうです。まだ小さいですが、僕にも息子がいて、そういう気持ちが僕の中にもあります。

そういった親子関係、四季の美しさ等々、いろいろな意味で、この作品はかつての日本人が持っていたものを見直す映画かもしれませんね。この映画がいい作品だとか、好きになる映画だとかいう以前に、日本人なら確認をしておかなければならない1本だと思います。

香川 照之 かがわてるゆき (宇治 長次郎 役)

1965年生まれ。東京出身。1989年、俳優デビュー。主な映画主演作『鬼が来た！』（00年、カンヌ国際映画祭グランプリ受賞）、『ゆれる』（06年）、『憑神』（06年）、『20世紀少年』シリーズ（08～09年）『トウキョウソナタ』（08年）。テレビではNHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』（09～11年放送予定）に正岡子規役で出演。